

聖書日課 『からし種』 2022.5.29-6.1

<p>5月29日 (日) ファイレモン</p>	<p>「わたしたちの間でキリストのためになされているすべての善いことを、あなたが知り、あなたの信仰の交わりが活発になるようにと祈っています」(6節)。証を分かち合うことは、一人では感じるができない神の業の広がりを知るために大切なことなのだろう。協力伝道の輪も、一つの教会では出会えない神の恵みを多くの人と共に分かち合うことなのだろう。</p>
<p>30日 (月) ヘブライ 1章</p>	<p>「天使たちは皆、奉仕する霊であって、救いを受け継ぐことになっている人々に仕えるために、遣わされたのではなかったですか」(14節)。神は天使たちに、ご自分のそばに留まっていなさいとは言わない。神がそれぞれに示される働きへと送り出してくださる。天使は、私たちに仕える働きを与えられている。私たちに託されている神の働きへと押し出されて。</p>
<p>31日 (火) ヘブライ 2章</p>	<p>「事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることができになるのです」(18節)。大祭司と言われるキリストは、神殿の奥で、礼拝をささげるだけではなく、私たちの生活の中にくて、神の共なる生活を歩まれた。だからこそ私たちの心にも寄り添い、私たちと共苦するキリストが土台となり、私たちを支えてくださるのだろう。</p>
<p>6月1日 (水) ヘブライ 3章</p>	<p>「キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし確信と希望に満ちた誇りとを持ち続けるならば、わたしたちこそ神の家なのです」(6節)。神の家は、目に見える建物だけではなく、十字架のキリストの福音をいただいている私たち自身も、神の家、神が留まる器としてくださる。「私」という家を、神はどのように用いてくださっているのだろうか。</p>

<p>2日 (木) ヘブライ 4章</p>	<p>「神はある日を「今日」と決めて、かなりの時がたった後、既に引用したとおり、「今日、あなたたちが神の声を聞くなら、心をかたくなにはならない」とダビデを通して語られたのです」(7節)。神が「今日」、この仕事を！と示してくださった大切な働きを、人の思いで捨てるのではなく、その日与えられた意味を大切にして歩みたい。</p>
<p>3日 (金) ヘブライ 5章</p>	<p>「キリストは、肉において生きておられたとき、激しい叫び声をあげ、涙を流しながら、御自分を死から救う力のある方に、祈りと願いとをささげ、その畏れ敬う態度のゆえに聞き入れられました」(7節)。神の御子であるキリストは、地上での歩みを人として生き抜かれた。叫び、悲しむイエス・キリストを主としていただいた。そのキリストに従う者とされたい。</p>
<p>4日 (土) ヘブライ 6章</p>	<p>「わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨(いかり)のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入って行くものなのです」(19節)。私たちに示されている希望は、神の「安定した錨(いかり)」。この地で生きる私たちが、神が立っておられるその場所にいつでも戻って来れるように、道標をいつも示してくださっている。</p>
<p>5日 (日) ヘブライ 7章</p>	<p>「この方は常に生きていて、人々のために執り成しておられるので、ご自分を通して神に近づく人たちを、完全に救うことがおできになります」(25節)。私たちは自分の力で自らを救うことができない。不安や恐れ、憤りに支配され、善をなそうとして悲しみをつくりだしてしまふ。その私たちのために祈り、執り成し続けてくださる方に立ち帰り、共に礼拝をささげよう。</p>